

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-269044

(43)Date of publication of application : 05.10.1999

(51)Int.Cl.

A61K 7/06
A61K 35/78

(21)Application number : 10-090838

(71)Applicant : SHISEIDO CO LTD

(22)Date of filing : 19.03.1998

(72)Inventor : ISHINO AKIHIRO
MAGARA TSUNAO
HAMADA CHIKA
TAJIMA MASAHIRO
OTA MASAHIRO

(54) HAIR TONIC

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a hair tonic having excellent depilation-preventing activities and hair-growth-promoting activities by formulating an extract of a plant belonging to the genus *Gnaphalium* of the family *Compositae* and/or a plant belonging to the genus *Senecio* of the family *Compositae* as an active ingredient.

SOLUTION: This hair tonic contains an extract of a plant belonging to the genus *Gnaphalium* of the family *Compositae* and/or a plant belonging to the genus *Senecio* of the family *Compositae* as an active ingredient. The plant belonging to the genus *Gnaphalium* of the family *Compositae* is exemplified by *Gnaphalium Spicatum* Lam. The plant belonging to the genus *Senecio* of the family *Compositae* is exemplified by *Senecio Phizomatosus*. These plants are each preferably the ones born in Peru. The extraction is preferably carried out by using fruits or roots thereof. The extract is obtained by extracting the component of the plant body as it is, or, optionally, after drying and pulverizing the component, with a solvent. The extraction solvent is preferably methanol or ethanol. The extract is preferably formulated in an amount of 0.01-5 wt.% based on the hair tonic expressed in terms of the dried material.

[First Hit](#)[Previous Doc](#)[Next Doc](#)[Go to Doc#](#)

Generate Collection

Print

L6: Entry 32 of 33

File: DWPI

Oct 5, 1999

DERWENT-ACC-NO: 1999-615526

DERWENT-WEEK: 199954

COPYRIGHT 2006 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Therapeutic agent for preventing hair loss and promoting hair growth - used in pharmaceuticals and cosmetics consists of extract of Compositae Gnaphalium plant and/or C. Senecio plant as effective ingredients

PATENT-ASSIGNEE:

ASSIGNEE

CODE

SHISEIDO CO LTD

SHIS

PRIORITY-DATA: 1998JP-0090838 (March 19, 1998)

Search Selected

Search ALL

Clear

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
<input type="checkbox"/> JP 11269044 A	October 5, 1999	J	006	A61K007/06

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DATE	APPL-NO	DESCRIPTOR
JP 11269044A	March 19, 1998	1998JP-0090838	

INT-CL (IPC): A61 K 7/06; A61 K 35/78

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 11269044A

BASIC-ABSTRACT:

NOVELTY - The therapeutic agent consists of extract of Compositae Gnaphalium plant and/or Compositae Senecio plant as effective ingredient.

USE - Used in pharmaceuticals, quasi-drugs and cosmetics for the treatment of alopecia or baldness. 10 male volunteers suffering from baldness are made to use 2 ml of the liquid hair restoring material once or twice a day for six months. A control group of volunteers are also subjected to the test by using a control sample. After the test period, 100 hair per person is pulled out and the hair root is examined.

The number of resting phase hair roots are examined to check the hair restoring effect of the liquid composition. The resting phase hair roots is a sign of stoppage of hair growth. The results showed that out of the 100 hairs pulled out, the percentage of resting phase hair root is found to be 20% or less in 55 hairs, around 20% in 35 hairs and more than 20% in 10 hairs. This shows excellent hair restoring effect of the liquid composition.

ACTIVITY - None given.

MECHANISM OF ACTION - None given.

ADVANTAGE - The hair restoring material has excellent hair growth restoring effect and prevents loss of hair, in mammals, especially humans.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.0/0

TITLE-TERMS: THERAPEUTIC AGENT PREVENT HAIR LOSS PROMOTE HAIR GROWTH PHARMACEUTICAL
COSMETIC CONSIST EXTRACT COMPOSITAE PLANT SENEIO PLANT EFFECT INGREDIENT

DERWENT-CLASS: B04 D21

CPI-CODES: B04-A10; B14-R02; D08-B03;

CHEMICAL-CODES:

Chemical Indexing M1 *01*
Fragmentation Code
M423 M781 M903 P930 Q252 V400 V406

SECONDARY-ACC-NO:

CPI Secondary Accession Numbers: C1999-179584

[Previous Doc](#)

[Next Doc](#)

[Go to Doc#](#)

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-269044

(43) 公開日 平成11年(1999)10月5日

(51) Int.Cl.⁴

A 6 1 K 7/06
35/78

識別記号

A D T

F I

A 6 1 K 7/06
35/78

A D T T

審査請求 未請求 請求項の数4 F D (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平10-90838

(22) 出願日 平成10年(1998)3月19日

(71) 出願人 000001959

株式会社資生堂
東京都中央区銀座7丁目5番5号

(72) 発明者 石野 章博
神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株
式会社資生堂第一リサーチセンター内

(72) 発明者 真柄 綱夫
神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株
式会社資生堂第一リサーチセンター内

(72) 発明者 浜田 千加
神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株
式会社資生堂第一リサーチセンター内

(74) 代理人 弁理士 館野 千恵子

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 養毛料

(57) 【要約】

【課題】 優れた脱毛防止効果および発毛促進効果を有する養毛料を提供する。

【解決手段】 Gnaphalium Spicatum Lam.のようなキク科(Compositae)ハハコグサ属植物またはSenecio Phizomatosusのようなキク科(Compositae)サワギク属植物の抽出物を有効成分として配合する。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 キク科(Compositae)ハハコグサ属植物および／またはキク科(Compositae)サワギク属植物の抽出物を有効成分として含むことを特徴とする養毛料。

【請求項2】 キク科ハハコグサ属植物が *Gnaphalium Spicatum* Lam. である請求項1記載の養毛料。

【請求項3】 キク科サワギク属植物が *Senecio Phizomatosus* である請求項1記載の養毛料。

【請求項4】 キク科(Compositae)ハハコグサ属植物および／またはキク科(Compositae)サワギク属植物がベルー10 一産である請求項1～3のいずれかに記載の養毛料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、特定の植物抽出物を有効成分とする養毛料に関する。本発明の養毛料は、具体的には、医薬品、医薬部外品および化粧品分野において利用される。

【0002】

【従来の技術】従来より、禿や脱毛の原因としては、毛根、皮脂腺等の器官における男性ホルモンの活性化、毛包への血流量の低下、皮脂の分泌過剰、過酸化物の生成等による頭皮の異常等が考えられている。このため従来の養毛料には、前記の原因を取り除いたり、または軽減する作用を有する化合物が一般的に配合されている。

【0003】このような化合物として、例えば、ビタミンB、ビタミンE等のビタミン類、セリン、メチオニン等のアミノ酸類、センブリエキス、アセチルコリン誘導体などの血管拡張剤、紫根エキス、ヒノキチオール等の抗炎症剤、エストラジオールなどの女性ホルモン剤、セファランチンなどの皮膚機能亢進剤などが配合され、脱毛症等の予防および治療に用いられている。

【0004】また、上記以外に天然物成分を利用するものとして、コショウ(胡椒)、シマツリシ(紫茉莉子)、フヒョウ(浮萍)等の薬用植物の1種以上に由来する抽出物を配合した皮脂抑制剤(特開平3-220129号公報参照)や、胡椒および地黄等をはじめとする15種の薬用天然物を特定の割合で混合し、エタノールおよび酢酸含有水溶液に浸して調製した養毛剤(特開平3-44312号公報参照)が提案されている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、前記のように種々の試みがなされているにもかかわらず、従来の養毛剤ではその脱毛防止、発毛促進等の養毛作用は必ずしも充分なものではなかった。これはおそらく、脱毛の原因がさまざまであり、また発毛の機構も非常に複雑であるためと考えられている。このような脱毛の原因の多様性を考慮すれば、さらなる新規養毛料の提供が望まれるところである。

【0006】従って、本発明の目的は、前記多様な脱毛の原因に対処すべく、優れた脱毛防止効果及び発毛促進

効果を有する養毛料を提供することにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明者らは、上記の観点から、有効物質の探索対象を広く求めて検討を行ってきた。その結果、キク科(Compositae)ハハコグサ属植物およびキク科(Compositae)サワギク属植物の抽出物が優れた養毛作用を示すことを見出した。

【0008】すなわち本発明は、キク科(Compositae)ハハコグサ属植物および／またはキク科(Compositae)サワギク属植物の抽出物を有効成分として含むことを特徴とする養毛料である。

【0009】以下、本発明の構成について詳述する。本発明に用いられる植物のうち、キク科ハハコグサ属植物としては、例えば、*Gnaphalium Spicatum* Lam. が挙げられる。キク科サワギク属植物としては、例えば、*Senecio Phizomatosus* が挙げられる。またこれらの植物はいずれもベルー一産であることが望ましい。

【0010】本発明の養毛料は、上記キク科(Compositae)ハハコグサ属およびキク科(Compositae)サワギク属植物の一種または二種以上が組み合わされた植物体構成部分から抽出される成分を含むものである。抽出に用いられる植物体構成部分としては、特に限定されるものではなく、果実、根、植物全草等が挙げられる。しかし、好ましくは果実あるいは根を用いる。

【0011】これらの植物体構成部分からの抽出は、この植物体構成部分をそのまま、あるいは必要により乾燥、粉碎した後、溶媒抽出に供して得ることができる。使用できる溶媒としては、熱水やメタノール、エタノール、イソプロパノール、n-ブタノール等の低級アルコールあるいはアロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール等の多価アルコール、あるいはこれらの含水物、あるいは炭化水素系溶媒、例えば、n-ヘキサン、トルエン等が挙げられるが、メタノールまたはエタノールを使用するのが好都合である。低級アルコールを使用する場合、得られる抽出液をそのまま、本発明の養毛料に含ませることができるが、抽出溶媒を除去し、必要により乾燥した後、本発明の養毛料に含ませてもよい。こうして得られる抽出物は、優れた養毛作用(脱毛防止および発毛促進、ならびにふけ、痒みの防止等の作用)を奏する。

【0012】したがって、具体的には、上記抽出物を有効成分として含んでなる本発明の養毛料は、頭髮の育毛用薬用化粧品などを包含する皮膚外用組成物の有効成分として使用できる。なお、上記した本発明にいう「養毛」とは、上述のように、発毛促進、脱毛防止、さらにはふけ、痒み抑制作用などを包含する概念で使用されている。

【0013】本発明の養毛料への上記抽出物の配合量は、組成物の形態または施用方法に応じて変動しうるので特定されるものでない。しかし、後述の実施例に記載

の方法に従って得られる抽出物を使用する場合、養毛料総重量中、一般に抽出物(乾燥物基準)が0.0005~10.0重量%、好ましくは0.01~5.0重量%となるように配合される。0.0005重量%未満であると、本発明でいう効果が十分に発揮されず、好ましくない。10.0重量%を超えると製剤上好ましくない。

【0014】本発明の養毛料は、液状、乳液状、軟膏など頭皮に適用できる性状のものであればいずれでもよく、前記の必須成分に加えて使用目的に応じて、本発明の効果を損なわない範囲内で、化粧品、医薬部外品、医薬品等に一般に用いられる各種成分、例えば油分、保湿剤、増粘剤、防腐剤、酸化防止剤、香料、色剤、薬剤、その他の活性成分を配合することができる。また、本発明の養毛料の剤型は任意であり、例えばトニック、ヘアークリーム、ムース、シャンプー、リンス等の剤型をとることができる。

【0015】これらの製剤を調製する上で特に育毛用組成物の補助成分として、本発明の養毛料に加えることができる上記の成分の具体的なものとしては次のものが挙げられる。油分、例えば高級脂肪酸、固形パラフィン、流動パラフィン、シリコン油、スクワラン、オリーブ油、イソプロピルミリスレート、高級アルコール等；保湿剤、例えばヒアルロン酸、プロピレングリコール、マルチオール、アテコラーゲン、乳酸ナトリウム等；増粘剤、例えばマルメロ粘質物、カルボキシビニルポリマー、キサントガム等；その他の活性成分、例えばモノオレイン酸グリセリル等の油分、ニコチン酸アミド、ニコチン酸ベンジル、ビタミンEアセテート、塩化カルプロニウム、センブリエキス、アセチルコリン誘導体等の血管拡張剤、セリン、メチオニン等のアミノ酸類、ビタミンB6、ビタミンE及びその誘導体、ビオチン等のビタミン類、パントテン酸及びその誘導体、グリチルレチン酸及びその誘導体、ニコチン酸、ニコチン酸メチル、ニコチン酸トコフェロールなどのニコチン酸エステル類、セファランチン等の皮膚機能亢進剤、エストラジオール等の女性ホルモン剤等を同時に配合してもよい。

【0016】さらに、通常、養毛料に用いられる添加剤、例えば、ヒノキチオール、ヘキサクロロフェン、ベンザルコニウムクロリド、セチルピリジニウムクロリド、ウンデシレン酸、トリクロロカルバニリドおよびビチオノール等の抗菌剤、メントール等の清涼剤、サリチル酸、亜鉛およびその誘導体、乳酸およびそのアルキルエステルなどの薬剤、クエン酸等の有機酸類、アルギニン等のアミノ酸類、グリセリン、プロピレングリコール等の多価アルコール、紫外線吸収剤、エタノール、水等が本発明の効果を損なわない範囲で適宜配合することができる。

【0017】

【実施例】次に実施例をあげて本発明をさらに具体的に説明するが、本発明はこれらにより限定されるものでな

い。なお、配合量は特記しない限り重量%で示している。まず、本発明で使用したキク科(Compositae)ハハコグサ属およびキク科(Compositae)サワギク属の植物抽出物の調製例を示す。

【0018】1. 試料の調製

(1) 調製例1 (Gnaphalium Spicatum Lam.メタノール抽出物)

キク科(Compositae)ハハコグサ属であるGnaphalium Spicatum Lam. 500g(乾燥物)を、7.5リットルメタノールに室温で5日間浸漬した。抽出液から溶媒を留去し、次いで乾燥して、Gnaphalium Spicatum Lam.メタノールエキス乾燥物38.0gを得た。

【0019】(2) 調製例2 (Gnaphalium Spicatum Lam.エタノール抽出物)

キク科(Compositae)ハハコグサ属であるGnaphalium Spicatum Lam. 500g(乾燥物)を、7.5リットルエタノールに室温で5日間浸漬した。抽出液から溶媒を留去し、次いで乾燥して、Gnaphalium Spicatum Lam.エタノールエキス乾燥物27.8gを得た。

20 【0020】(3) 調製例3 (Gnaphalium Spicatum Lam.70%エタノール抽出物)

キク科(Compositae)ハハコグサ属であるGnaphalium Spicatum Lam. 500g(乾燥物)を、7.5リットルの70%エタノールに室温で5日間浸漬した。抽出液から溶媒を留去し、次いで乾燥して、Gnaphalium Spicatum Lam.70%エタノールエキス乾燥物21.5gを得た。

【0021】(4) 調製例4 (Senecio Phizomatosusメタノール抽出物)

30 キク科(Compositae)サワギク属植物であるSenecio Phizomatosus 500g(乾燥物)を、7.5リットルメタノールに室温で5日間浸漬した。抽出液から溶媒を留去し、次いで乾燥して、Senecio Phizomatosusメタノールエキス乾燥物40.5gを得た。

【0022】2. 発毛試験

実験動物として毛周期の休止期にあるC3H/HeNCrJマウスを使用し、小川らの方法[ノーマル・アンド・アブノーマル・エピダーマル・ディファレンシエーション(Normal and Abnormal Epidermal Differentiation)、M.SeijiおよびI.A.Bernstein編集、第159~170ページ、1982年、東大出版]により行った。

【0023】すなわち、マウスを1群10匹とし、それぞれ被検物質(前述の調製例1および調製4で得られた乾燥抽出物を1%、2%および4%含有する70%エタノール溶液)と対照試料用(70%エタノール溶液)、比較対照用(0.1%クロトン油75%エタノール溶液)の6群に分け、バリカンおよびシェーバーでマウスの背部を剃毛し、それぞれの試料を1日1回、0.1mlずつ塗布した。17日後および30日後に毛の再生面積を測定し、剃毛面積に対する再生面積の割合を百分率で求めた。その結果を表1に示す。

【0024】

* * 【表1】

試料	濃度 (重量%)	17日 (%)	30日 (%)	判定
Gnaphalium Spicatum Lam. 抽出物	1	17	55	効果あり
Gnaphalium Spicatum Lam. 抽出物	2	23	64	効果あり
Gnaphalium Spicatum Lam. 抽出物	4	31	71	効果あり
Senecio Phizomatosus 抽出物	1	21	60	効果あり
Senecio Phizomatosus 抽出物	2	25	68	効果あり
Senecio Phizomatosus 抽出物	4	29	76	効果あり
対照		0	0	効果なし
比較対照		28	63	効果あり

【0025】表1より、本発明に使用する抽出物は、マ ※かる。

ウスの発毛試験において優れた発毛効果を示すことがわ※ 【0026】

実施例1

(1)Gnaphalium Spicatum Lam.

メタノールエキス乾燥物(調製例1) 0.1 重量%

(2)70%エタノール 90.0

(3)オレイン酸ナトリウム 0.01

(4)ドデシルベンゼンスルホン酸 0.49

(5)硬化ヒマシ油エチレンオキシド(40モル)付加物 0.5

(6)イオン交換水 残余

(製法) Gnaphalium Spicatum Lam.メタノールエキス乾燥物を、70%エタノール、オレイン酸ナトリウム、ドデシルベンゼンスルホン酸、硬化ヒマシ油エチレンオキシド(40モル)付加物および一部のイオン交換水と混★合攪拌して溶解させた。さらにイオン交換水(10%)を添加混合して、液状の養毛料を得た。

【0027】

シド(40モル)付加物および一部のイオン交換水と混★

実施例2

(A相)

Gnaphalium Spicatum Lam.

エタノールエキス乾燥物(調製例2) 1.0 重量%

ポリオキシエチレン(60モル)付加硬化ヒマシ油 2.0

グリセリン 10.0

ジプロピレングリコール 10.0

1,3-ブチレングリコール 5.0

ポリエチレングリコール1500 5.0

(B相)

セチルイソオクタネート 10.0

スクワラン 5.0

ワセリン 2.0

プロピルパラベン 2.0

(C相)

カルボキシビニルポリマー1%水溶液 30.0

ヘキサメタリン酸ソーダ 0.03

イオン交換水 8.35

(D相)

イオン交換水 4.5

(E相)

苛性カリ 0.12

イオン交換水

5.0

(製法) A相、B相をそれぞれ60℃で加熱溶解し、混合してホモミキサー処理し、ゲルを作る。これにD相を徐々に添加し、ホモミキサーで分散する。次にこれに溶*

* 解したC相を加え、最後に溶解したE相を添加し、ホモミキサーで乳化して水中油型乳液型の養毛料を得た。
【0028】

実施例3

(A相)

流動パラフィン	5.0 重量%
セトステアリアルアルコール	5.5
グリセリルモノステアレート	3.0
EO (20モル) - 2-オクチルドデシルエーテル	8.0
プロピルパラベン	0.3
香料	0.1

(B相)

Gnaphalium Spicatum Lam.	
70%エタノールエキス乾燥物 (調製例3)	5.0
グリセリン	8.0
ジプロピレングリコール	20.0
ポリエチレングリコール4000	5.0
ドデシル硫酸ナトリウム	0.1
ヘキサメタリン酸ソーダ	0.005
イオン交換水	45.095

(製法) A相、B相をそれぞれ加熱溶解して混合し、ホモミキサーで乳化してクリーム状養毛料を得た。 ※ 【0029】

実施例4

(1) Senecio Phizomatosus

メタノールエキス乾燥物 (調製例4) 0.5 重量%

(2) 70%エタノール 90.0

(3) オレイン酸ナトリウム 0.01

(4) ドデシルベンゼンスルホン酸 0.49

(5) 硬化ヒマシ油エチレンオキシド (40モル) 付加物 0.5

(6) イオン交換水 残余

(製法) Senecio Phizomatosusメタノールエキス乾燥物を、70%エタノール、オレイン酸ナトリウム、ドデシルベンゼンスルホン酸、硬化ヒマシ油エチレンオキシド (40モル) 付加物および一部のイオン交換水と混合攪拌して溶解させた。さらにイオン交換水 (10%) を添加混合して、液状の養毛料を得た。

【0030】比較例1

実施例1におけるGnaphalium Spicatum Lam.メタノールエキス乾燥物 (調製例1) 0.1重量%の代わりに、胡椒 (Piper nigrum L.) のメタノール抽出エキス乾燥物 0.1重量%を用いた他は、実施例1と同様にして液状の養毛料を得た。

【0031】上記で得られた実施例1~4および比較例1の各養毛料を用いて、その脱毛防止、発毛効果等の養毛作用を調べるために、ヒトに対して、以下の方法でトリコグラム試験を実施した。なお、対照は70%エタノ★

★ールである。

【0032】養毛料の使用前と使用後の抜去毛髪の毛根を顕微鏡下で観察し、毛根の形態から休止期毛根数を計数し、その割合の増減によって養毛料の養毛作用を比較した。休止期毛根とは成長の止まった毛の毛根であり、脱毛を訴える人は正常な人よりもこの休止期毛根の割合が多いことが認められている。

【0033】実施例1~4、比較例1の被験試料および対照試料の各養毛料をそれぞれ男性被験者10名の頭皮に1日2回、1回2mlずつ6ヶ月間連続して塗布し、塗布直前および6ヶ月間塗布終了直後に被験者1名につき100本ずつ毛髪を抜去し、それぞれの毛根を調べ、実使用テストを行った。その結果を表2に示す。

【0034】

【表2】

試料	休止期毛根の割合 (%)	養毛効果の評価
----	--------------	---------

	20%以上減少	±20%未満	20%以上増加	
実施例1	55	35	10	有効
実施例2	50	40	10	有効
実施例3	60	30	10	有効
実施例4	60	25	15	有効
比較例1	20	60	20	やや有効
対照	10	50	40	無効

【0035】 10*トを始めとする哺乳動物において優れた脱毛防止効果お
 【発明の効果】以上説明したように、本発明によればヒ* よび発毛促進効果を有する養毛料が提供される。

フロントページの続き

(72)発明者 田島 正裕
 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株
 式会社資生堂第一リサーチセンター内

(72)発明者 大田 正弘
 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株
 式会社資生堂第一リサーチセンター内